高齢者へのワクチン接種

国立病院機構東京病院　永井　英明

KEY WORDS
●超高齢社会
●インフルエンザワクチン
●肺炎球菌ワクチン
●帯状疱疹ワクチン

はじめに

2017年度のわが国の高齢化率は27.7%となり，超高齢社会の範疇に入り，高齢者における総医療費の高騰が問題になっている。したがって，高齢者における疾患の予防は喫緊の課題である。

疾患予防対策のなかではワクチンは重要であるが，小児と異なり高齢者ではワクチン接種の関心が薄いといわざるを得ない。

高齢者に積極的に接種すべきワクチンとして，インフルエンザワクチン，肺炎球菌ワクチン，帯状疱疹ワクチンを取り上げたい。

Ⅰ．インフルエンザ

インフルエンザは毎年冬季に流行し，日本の全人口の5～10%（600～1,200万人）が発病する。高齢者や，呼吸器疾患，心疾患，糖尿病，腎疾患，肝疾患などの基礎疾患を有する人が感染し発病した場合，重症化し，死亡することもある。

1．インフルエンザワクチン

インフルエンザワクチンの種類は多様であるが，不活化ワクチンであるスプリットワクチン（全粒子ワクチンの脂質層を取り除いて精製したもの）が，わが国も含め広く用いられている。

インフルエンザワクチンは，以前より発育鶏卵を用いた培養法によって製造されてきた。しかし，この製造方法は煩雑であること，ワクチンに微量に含まれる鶏卵蛋白質に対するアレルギー発症のリスクがあること，迅速に大量のワクチンを作れないこと，ウイルスを鶏卵に馴化させる過程でウイルス遺伝子が変異し有効率が低下する可能性があることなどの問題点がある。これらの問題点を克服するために，近年，細胞培養法や遺伝子組み換え技術が開発されている。

海外ではワクチンの免疫原性を高め

Vaccination to older adults.
Hideaki Nagai（臨床研究部長）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.